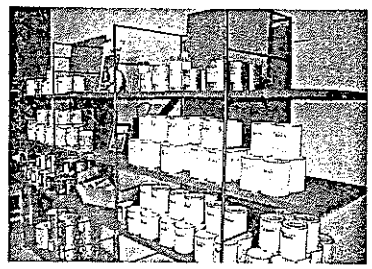
日本の住宅文化に一石を投じたい

ポーターズペイント（オーストラリア）

日本の住宅文化を変えたい。今の住宅の資産価値は過ぎたときが最高で、住まい手も同様の価値基準をもっている。後はただ朽ちていくだけ。そんな現状を変え、住まい手が自分の家に愛着をもって生活空間を楽しみ、使えば使うほどに家に味が出てくる、そんな住宅づくりに手を加えていける仕掛けを、親会社オリエンタル産業（神奈川）がこれまで培ってきたノウハウを導入しながら作りたいと考えていた。その素材として出会ったのが「ポーターズペイント」（オーストラリア・シドニー）であった。2002年から輸入を始め、日本市場で展開している。

ポーターズペイントは、オーストラリアでもこだわりをもったペイントメーカーである。同国のVOCの基準値も、また2007年度までの目標基準値もクリアしており、医師がアレルギーをもつ患者の部屋に適する塗料として薦めている。カラーカードはすべて手塗り。色名に番号はつけず、すべてに名前がついている。販売方法も大量販売はせず、すべて直営のショップでお客と対面しながら販売する。こんなこだわりを同社社長ピーター・ルイス氏はもっているので、当初、日本への輸入もなかなか難しく、いかにこちらが愛着をもっているのかを伝えなければならなかった。



2002年から日本で展開

当社社長の実家や本社オフィスをすべてポーターズペイントでリフォームを行うなどして思いを伝え、ようやく輸入することができた。

ワークショップで体験

日本ではまだまだ壁を自分で塗装することに、壁に色をつけて楽しむことは、生活の中に根付いているとはいえない。その時々の好きな色で部屋をペイントして生活を楽しむ。その色に飽きたら、また違う色を塗って部屋の模様替えをする。そんな楽しい文化を日本でも作り出したいと思っている。

こうした文化を醸成するため、ワークショップを月に1～2度開催している。壁面への塗装を中心に、時計の文字盤作りやハーブを植える鉢への小物塗装など機々な企画を立てている。

月1～2度開催のワークショップ

これまでペイントに触れたこともない方たちに、以外に簡単に塗れること、そして塗ることによって部屋のイメージが変わることの楽しさを体験して頂いている。ワークショップ後、自宅の壁の塗り替えにチャレンジしている方も何人かおり、少しずつであるがペイントを塗る楽しみが広がっているようだ。

その他、各種相談窓口を設け、カラーの相談、塗り方や適した塗料選びなどについてアドバイスを行っている。ポーターズペイントは発注を受けてから色を作成しており、お客のオリジナル色も作成できる。一方、施工業者向けにも刷毛での塗り方や石灰の入った特殊なペイントの使用方法などのワークショップを開催している。

また、希望者にはメールマガジン「PORTERS PAINTS MAIL MAGAZINE」を毎月中旬に配信。イベント情報やペイントコラムなどを掲載しており、今後は当社ホームページ上でも配信希望を受け付ける予定でいる。

日本の第1号店があるIID

廃校を生かした店舗展開

現在、日本のポーターズペイントショップ第1号店として、2004年10月に東京都世田谷区池尻にあるIID（INTERIOR INSTITUTE DESIGN）内1階にショップを構えた。このIIDは、2004年3月に廃校となった池尻中学校校舎をリノベーションした施設である。現在は「ものづくり学校」として、"ものをつくる"というコンセプトをもったクリエイターが集まり、学校の校舎という空間の中で時にコラボレーションを試み、各々の得意分野を生かしながら活動を行っている。ちなみに、当店舗は元給食配膳室に入居している。客層は一般生活者が4割で、6割が施工業者などプロとなっている。

校舎内には共有スペースなど様々なスペースがあり、ワークショップの一環としてミーティングルームや廊下、エントランスなどを塗り替えている。この壁への塗装がお客を学校内案内する際にポーターズペイント施工サンプルとして役立っている。ワークショップ参加者の7割がリフォームや棚などの塗り替えを考えている一般生活者であり、3割が新しい技術を身につけ武器にしたいと考える施工業者である。いずれにしても、ものづくりに興味のある方が多く集まって来るので、IIDへの入居は当社のコンセプトに合っているといえる。

▽ポーターズペイントショップ（☎03・5779・7260、http://www.porters-paints.com）

全国賃貸住宅新聞・オーナー専科 第663号

TOPICS

ランニングコストが低いペンキ塗り

オリエンタル産業（神奈川県横浜市）的場敏行社長

当社では、オーストラリアで製造されたペンキの販売をしているのですが、最近はクロス張りからペンキ塗りへと変更する物件が増えてきています。

ペンキ塗りにした場合のメリットは、入退去の度に原状回復する必要がない点です。汚れや傷がついた部分だけなぞるように塗装すれば隠せます。

ペンキ塗りにした場合、クロスよりも平米あたり2000円ほどコストが高くついてしまいますが、2回入退去を経れば元がとれます。つまり、ランニングコスト削減に役立つわけです。

ペンキする場合には、つやがなく、質感があり、刷毛で塗れるような塗料がお勧めです。そのほうが、後から重ねて塗ったときにごまかしが聞きます。

クロス張りの部屋をペンキ塗りにする場合は、壁紙の上からペイントしてしまうという手もあります。汚れを完全にはじいてしまうような素材でない限りその方法でも対応できますよ。

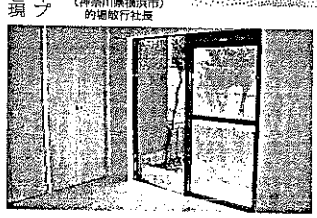
全国賃貸住宅新聞・オーナー専科 第659号

セザール柿生

最新リフォーム物件拝見

オリエンタル産業（神奈川県横浜市）的場敏行社長

古いタイプの間取りを現在のニーズに合わせ、間時に部屋をどれだけ広く見せられるか。これは賃貸住宅のリフォームで取り組まなければならない課題のひとつだ。築20年の1Kをワンルームへと改修した「セザール柿生」（神奈川県川崎市）はこの二つの課題を見事にクリアしている。



◀大きめのクローゼットを設置

奥行き感を出す配色に注目

ステンレス製のキッチンが居室を広く見せる効果あり

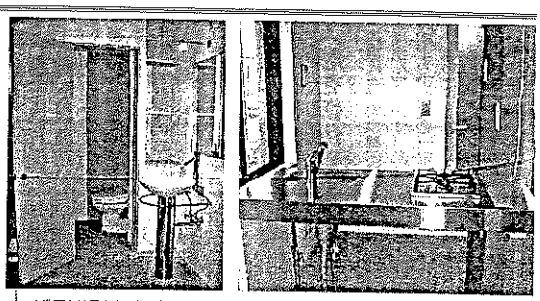
面積は21・95㎡。数字上は決して広くはないが、居室の中に立ってみると、ずいぶんひろびろとした印象だ。

その理由はキッチンの位置にある。リフォーム前は壁側に寄せられていたキッチンをリビング側に移動し、対面式にしたのだ。対面式といっても、ステンレスの一枚板のキッチンなので、圧迫感がない。

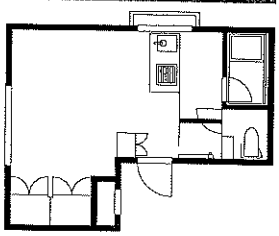
2口のガスコンロとシンクだけのシンプルなキッチンだが、随所に工夫が施されている。シンクとコンロの間に空間を作り、作業スペースを設けた。また、シンク奥にもスペースをとり、イスをおけば簡単な食事を取るためのカウンターとして使用できるよう配慮されている。テーブルを置かずにすむので、その分部屋を広く使うことができるのだ。

色使いもまた、開放感を演出するのに一役買っている。クロスを使用せずにペンキ塗りにした壁は、つやがなく、質感があり、刷毛で塗れるような塗料がお勧めです。そのほうが、後から重ねて塗ったときにごまかしが聞きます。

クロス張りの部屋をペンキ塗りにする場合は、壁紙の上からペイントしてしまうという手もあります。汚れを完全にはじいてしまうような素材でない限りその方法でも対応できますよ。



▲洗面台は居室内に設置した
▶コンロ側に設けた壁が玄関からの目隠しの役割を果たしている



塗料はオーストラリアのポーターズペイントを使用。大理石面は、白を基調的に淡いブルーと濃紺を用いた。全体を白一色に統一してしまうよりも、部屋の中に明るさと奥行きを出す効果をもたらしている。ペンキ塗りの刷毛（はけ）の跡が見えるのも、奥行きを感じる理由のひとつだ。

リフォーム前は6万円だった賃料を、7万5000円に設定変更した。

（オリエンタル産業的場敏行社長）

DATA

改装年月：2005年3月
構　造：RC造（1階部分）
間取り：1R（21.95㎡）
賃　料：7万5000円